麻生区区民会議　第１３回　市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

１　開催日時：平成２７年１２月１５日（火）午後３時００分～午後５時０５分
２　開催場所：麻生区役所第５会議室
３　出席者：［専門部会委員］
　　岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、髙倉委員、林委員、宮本委員
　　（欠席）横田委員
　　［事務局］　白石、麻生　［コンサルタント］　中島
４　傍聴者　　０名
５　連絡事項
・部会長より企画部会内容の報告。若者部会の進捗状況を説明。
　フォーラムのチラシ案は当部会で作成することになった。本日検討する。
・前回の会議の無いようについてコンサルタントが説明。
　部会長より、今までの意見についてまとめたイメージ図の提供があり、シニア世代で一括りにしても、ボランティアを始めようと思い立つ段階では、「健康寿命を延ばしたい」や「資格や経験などを生かしたい」等、人それぞれにストーリーが存在している旨確認。図について検討経過に盛り込む旨確認した。

６　議　事
（１）世田谷ボランティアセンターの視察報告について
　部会長をはじめ参加した委員６名より説明あり。
・同センターは障害の子を持つ親のグループを支援する団体から発足。福祉との複合施設。主にボランティアコーディネーターの相談窓口、ボランィア活動の情報を流し、人と団体をつなげる仕組みの「おたがいさまＢａｎｋ」、情報紙「セボネ」の発行等を行っている。
・知名度が高く区民から信頼を得ているようだ。麻生区はどこへ行けばよいのかと迷うところだが、世田谷区では、このセンターで事足りる。
・背中を一押しするということはしていない。緩やかなルール。
・ジャンルごとに何をしたらよいかわかる。行けばやりたいことが見つかる環境を整えている。
・冊子がよくできている。手に取りやすい。
・相談窓口は火～金は２２時まで開いている。勤め人や学生も利用している。区内に４つの窓口がある。
・世田谷区はボランティアが生活の中に溶け込んでいる。
・団体が受け入れる体制がない場合、団体に対しての助言が丁寧。情報共有ができている。
・今回の訪問について対応して頂いた高橋氏の話によると、マッチングについては単に情報を流すよりも、ＦＡＣＥｔｏＦＡＣＥの関係できめ細かい対応を重視しているとのこと。
・カラー印刷ができるなど、市民団体にとって、かゆいところに手が届く運営をしている。アットホームな空間、居心地が良い。

（２）提言に向けて
　提言に向けてコンサルタントより、今までの意見を踏まえた上で、提言の方向性と、提言の取組について、例が出され、検討した。
・コンサルタントが出した方向性について、①関心がある人へ届く情報発信、②参加への一押し、③参加までの流れが並列的に挙げられているが、①②は間口（スタート）であるが、①と②の上手い組み合わせを示す③については次の段階のイメージ。
・区全体でボランティア週間、月間をつくるのはどうか。２階のロビーでは、あさおのお店やごみの減量推進の臨時相談窓口の開設等、色々やっている。期間中、市民館、やまゆり、社協の３者合同のボランティア相談所を置くことはできないか。
・相談窓口３者共同の取組としては、既に合同チラシ作成や市政だより等での周知を図っている。

・先日、しんゆり映画祭のボランティアに参加したが、連絡体制が全てメールで、自分の希望で参加が判断できる仕組みがあった。そういうことはできないのか。
・どこまでできるのか運営する団体側にも限界があると思う。
・イベント型、施設運営、弱者を助けるためのボランティア、それぞれ分けて考える必要があるのではないか
・単発か継続かは踏み出す際のメニューの違いに過ぎないのではないか。
・働いているけどボランティアをしたい。団体には入りたくないが、単発なボランティア活動をしたいという人もいる。
・気持ちを起こさせる何か。趣味から始めるというのもあり。一歩踏み出す人をフォローする体制が必要。
・一方で団体側もボランティアがほしいと思っているところはある。しかし、どこに相談したらいいのかわからない。
・昔、子ども関係の活動をする際、社協に協力をお願いしたこともある。
・そもそも、その前にボランティアが増えることは豊かな社会を築くという前提があり、それを周知することが必要。その次の段階として、自分のための健康維持等のメリットが考えられるのではないか
・ボランタリーな社会。実際に活動してみるとよくわかるが、地域コミュニティづくりなどボランティア活動は一石五鳥といってもいい位の価値がある。
・ボランティア情報が欲しい人に、メール配信等で、情報が送られるような仕組みがあれば良い。
・情報提供にあたって、女性は町内会の回覧をよく読む、町内会の活動を妻に任せている男性は読まないようだ。男性は、市政だよりやタウンニュースを比較的読む。
・メディアミックスを考えるとき、情報提供は誰がやるべきか、どこがやるべきかという視点が必要。
・ボランティア情報が欲しい人に情報を届ける仕組みが必要。
・情報が欲しい人は自ら動くのではないか。
・今年度、あさお区民記者クラブでは地域課題解決型提案事業で、ボランティア団体の情報を掲載したあさおふれんずを作成している。インターネット上でも見ることができる。
・社会に貢献したいと思っていても、シルバー人材センターは週３日程度の上限が決められている。
・シルバー人材センターにチラシを置くことはできないか。
・ボランティア募集専用の棚があるとわかりやすい。

⇒各委員で提言の方向性と具体的な取組を考えておく旨、確認した。

（３）区民会議フォーラムの進め方について

事務局より、今後のスケジュール、検討事項について説明。チラシ案を検討した。夫は元気に外に出てほしい旨を謳った案３を採用、裏面に健康寿命と平均寿命の差についての説明文（質問文）を入れる旨確認した。

（４）報告書のイメージについて

事務局より説明。今回の報告書では、委員の意見とともに、図、表、写真、イラストを入れ、読み手が部会の審議を追体験できるような構成とし、次回叩き台で検討する旨、確認した。